

繪本
敵討

岩見英雄錄

三編

三

遠
2509
35-17



遠
2509
巻 35-17



本復讐言英雄録三編卷之三

高野孫多清跡之事

高野孫多清跡之事
其夜城街の籠鎖不終く門生等
と先之逃し已も二階とぬけぬ跡と追く去んと爲し
が、佐と思ひ多中。今命と顧ハ只片氷と踏がぬ
既ハ捕家より。東日流へ使者と送り程なれば密に我
初作とらかふ者あり。且是より南小籠了。捕家の
領内より作眼と置て言と訴らふこと必せり。捕らば
十人の門生等も終不厚くうきえられて、仍く籠鎖不
及らん吾交りりぬむ。故も尋常の籠人ありとも
二斗杯の籠中もあはし。途申さるに熱ひなるべし。

夏丸英雄録三編卷之三

吾福歩してひそくに軍及より去べしとて
 あひ定まらば神人といふもの。や、いふれど、まゐられ
 己が逃のきもまゝといふと、及てかゝる邪智悪才、是樹
 藤とたどりつて、ひそくに城のうしろへまゐり、まゝ山の上は
 小かくて、そとを築けり。村這まき、山の上へ名だるる山
 あし、参差する峯、巖雲ふはらなりたるが、ひ山路
 よりして、下毛の玉（出の捷）もちあり。あつれども、松林背、
 さいて日影と遮のうへ雲霧、山のまふくと掩られ、こゝに
 閑道ありとて、雲の老ごれ、知れ、稀なるに、かゝる費計
 と、終の老かれれば、是ともいひ、さあなりたりとん。終終
 たりして、そとありとて、あり尾と小出、うらうらふ、つね小舎

と見ゆげ、やがて、海と分つて、爰小つて、こゝに
 穠人のつゝ、おや、望まき、鏡をいへり、もかけ、こゝに、ま
 こゝろ、老の、養子、又、造志、こゝろ、上、又、向ひ、中、て、朝仏
 吃、こゝろ、有、奉、家、お、あ、ま、き、は、肉、入、入、れば、主婦、の、い
 大、又、移、こゝろ、極、て、是、ハ、傳、隊、の、中、中、な、ん、ハ、何、由
 仍、朔、疾、来、り、ま、か、や、危、き、及、と、終、終、よ、く、も、た、ど、り、あ、り、
 の、う、れ、と、最、不、震、打、守、り、た、ま、を、ん、て、奉、家、の、つ、こ、ろ、
 國、吾、吾、傳、隊、の、中、中、ま、あ、り、は、親、の、世、を、付、福、と、ま、り、
 二、年、松、島、の、民、思、ん、ま、主、本、所、と、号、さ、る、の、れ、あ、り、と、世、
 す、り、老、傳、隊、の、極、中、ま、か、れ、あ、り、と、守、り、及、昨、日、あ、と、と、逃、こ、
 即、り、は、り、ふ、彼、老、や、竹、し、て、手、守、あ、り、と、ん、三、日、必、あ、り

脊より。あつと負たり。つらつら。が。奉。奉。の。朝。納。の。所。を。見。て。喜。味。
 た。中。人。あ。る。べ。せん。と。して。あ。と。と。い。ふ。妻。よ。強。く。重。先。よ。す。く。んで
 つ。こ。り。ば。孫。多。話。も。妻。よ。一。終。述。て。孫。人。の。あ。し。お。け。さ。山。文
 山。と。た。ど。り。祇。田。光。さ。と。て。落。ち。く。り。と。い。ひ。め。さ。う。れ。あ。り。人
 の。め。い。れ。れ。ども。日。と。磨。く。后。よ。い。獵。人。より。い。く。佛。塚
 あ。い。き。く。え。ん。く。り。と。か。や。嗚。呼。奉。奉。終。は。仙。石。が。内。意。お。指。く
 ま。身。の。危。急。と。察。し。早。も。門。生。等。と。逃。て。后。行。は。し。婿。家。の
 ち。あ。て。あ。り。と。織。難。と。い。軍。房。よ。ま。け。て。懸。持。と。去。り。く。ら。
 未。花。と。知。の。智。得。く。り。と。い。い。べ。い。独。り。これ。皆。人。と。あ。や
 つ。う。衆。目。と。ら。う。ま。し。己。よ。と。懐。な。ん。と。え。と。終。横。す。り。と
 の。り。く。賢。と。居。君。子。誓。も。取。お。は。し。終。性。く。自。ら。罪。と。ま。す。く

通ふ天珠の形、不るれに至る。却て君とまじく

毒業白状之事

僕も指家よ於ハ、曩より捕らる。其業共を黄く。其魁首く。孫多話奉奉が、以糸と訊き、さうくと。いつとも。そ。夜。臨。鏡。と。逃。び。く。後。彼。二。平。松。く。り。あ。合。ぶ。れ。の。約。定。る。事。が。長。い。と。より。あ。る。と。あ。ひ。一。而。已。う。く。い。か。な。り。し。う。さ。う。れ。あ。る。ご。り。の。話。一。つ。も。同。一。白。状。な。り。な。れ。ば。い。り。ん。も。為。が。う。く。先。人。あ。書。と。い。ひ。に。方。の。お。に。より。し。て。市。場。宿。ぐ。十。室。の。是。よ。即。り。ま。う。く。船。と。迎。て。捜。索。事。嚴。密。な。り。く。り。物。を。い。響。ふ。東。日。流。へ。使。者。と。蒙。く。り。婿。友。ハ。命。成。実。啼。り。あ。り。と。波。園。家。の。返。給。を。指。く。後。左。衛。門。佐。及。み。渴。く。る。よ。う。り。く



九英
 孫三
 編卷之三
 五

其言ゆきされし次々と洋に云上為しは輝きとせ
 先長はふりてふまが。志意と教どく。然るを彼政家
 の役者として信せり。御もども上中
 十余人の輩と保まらる。只一個の志らんとやらんと苦
 めんとて勢も危き信とる。大橋不致といひても
 實は是恐るる故めて多ぞ。程やうとと携問せば教意。
 明白さるべしと有て先成実が程よく。こととせうし
 たりと賞せられ且長途のゆいひの速さうしと信せり
 て輝きせとゆいれ多ひくれ。各も亦携信して退る
 ぬ。七月八日。其輩ホと。於巖く。乳明のふりて。長
 上野の政家とせり。若く成実等。彼類は進て彼十人の

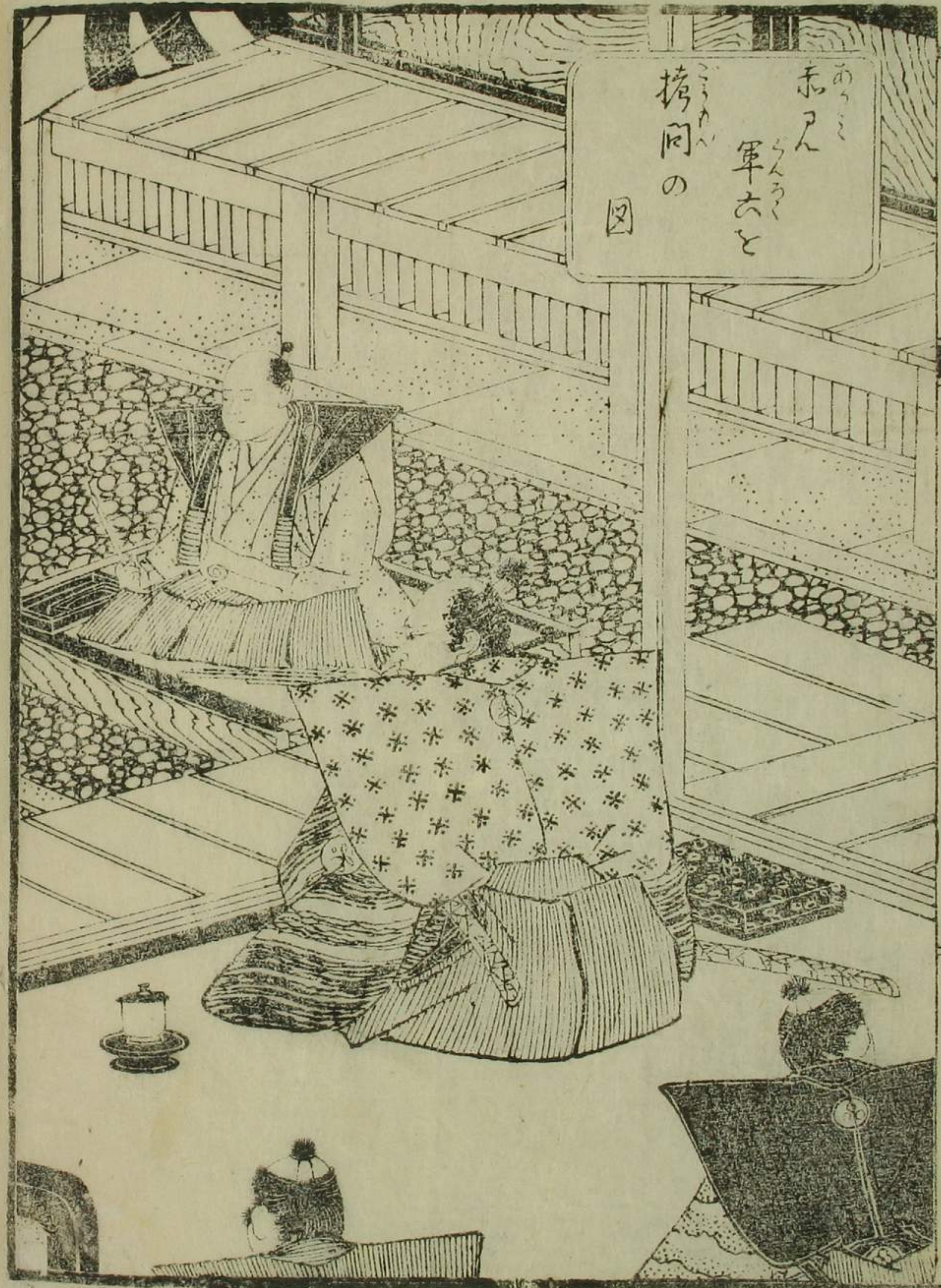
者より而あるの奴僕と獄申より。牽出させ。白洲に於て
 巖く携問よかけし。これ大平宗六。曾も苦痛と保
 り。若く者うらんや。忽。白州あり。信。信。中。機。て
 ひ。多。輝。洋。は。な。び。ひ。も。彼。若。ん。き。を。師。ハ。主人
 奉。嘉。が。妾。婦。玉。紡。する。者。と。宇。部。文。の。青。樓。より。携
 出。し。て。逃。の。き。い。故。奉。嘉。怒。り。信。守。乃。び。其。門。人。違。を
 連。し。進。出。せ。れ。し。途。中。より。して。又。信。守。み。命。じ。て
 其。妻。子。中。女。と。提。來。れ。と。有。小。付。是。非。を。く。其。妻。違。を。見
 の。人。と。す。信。守。如。勢。々。計。ら。ひ。て。連。來。て。ひ。ひ。と。主人
 も。づ。つ。妻。も。中。女。も。殺。害。而。屍。ハ。西。久。津。川。に。沈。す。て。ひ
 ひ。き。是。ハ。彼。若。ん。と。密。通。故。り。て。ひ。由。を。實。吾。ハ。信。守。更

存ぞび。毒き事ハ内子子。赤ん氏よ。さそせま。ま
 よりの由地へ来りても。只偏掌の。使役ひる。己にて。事一
 機密ハ。知れば。とぞや。政系。是と。成実。向て
 曰。今彼木が白し。そ。赤ん軍。六。奴ハ。郷。野。一。族と
 移して。某が。宅。も。未。し。若。て。吾。家。士。も。能。而。と。者。感。て
 あり。強。バ。これ。多。種。の。私。意。一。の。者。多。く。れ。バ。先。這。奴。と
 拷。問。ま。か。く。べ。疾。く。と。有。れ。バ。成。実。ホ。實。然。こ。そ。ひ。へ
 と。て。多。夢。又。指。揮。す。れ。バ。下。吏。ホ。畏。て。赤。ん。軍。六。と。引。居
 打。挫。あ。り。あ。げ。つ。素。と。素。と。素。と。わ。ど。に。軍。六。宗。秋。苦。痛。に
 堪。兼。て。奉。豪。が。正。結。と。も。入。ん。が。為。不。安。連。控。内。と。計。り。
 守。級。兵。小。通。ひ。に。始。終。よ。り。して。己。も。亦。奉。豪。が。素。と。通。り。て

排。れ。ど。事。な。ら。う。と。憤。り。し。ゆ。不。思。ん。持。季。と。持。女。子
 と。終。云。為。り。奉。豪。と。つ。つ。せ。安。達。連。と。係。て。近。隣。に
 厚。目。と。掩。ん。が。為。不。盜。賊。の。正。業。又。控。撥。傍。女。と。り。女。と。引。出。て
 奉。豪。又。殺。せ。し。一。条。乃。び。安。達。が。旧。同。僚。の。好。と。ひ。始。奉。豪
 と。御。身。の。情。好。有。と。以。二。分。ね。の。薄。中。遊。倅。の。壯。士。持。佐。
 荒。井。才。次。ホ。と。あ。ざ。む。誘。ひ。て。赤。ん。持。季。と。殺。ん。が。為。不。
 以。地。へ。来。り。し。事。又。奉。豪。が。波。呂。殿。の。使。と。つ。つ。り。一。分。例
 其。條。残。亦。有。白。州。一。高。地。へ。来。り。後。の。事。ハ。吾。等。あ。ら。せ。ま。ふ。
 ぬ。ふ。ひ。と。て。彼。仙。石。以。り。不。縮。結。ハ。も。ら。也。密。又。使。と。さ。り。や。り。為。し
 事。且。仙。石。が。内。玄。又。信。奉。豪。事。の。露。形。せ。し。と。察。て。忽。不。縮。結
 と。逃。ぎ。出。し。事。共。洋。よ。肩。伏。と。ぞ。為。り。り。於。子。所。の。者。を。も。

一 一乳弾しうりふ。衆は一致の白状なりしうが。先呵嘖と
 ゆりめて。悉く再。御中。小つちうせ。並。は。顔と。皇。小。輝。軍。へ
 云。上。う。り。ふ。輝。軍。独。り。バ。愈。若。見。行。季。熟。人。ふ。み。り。り。り。
 且。彼。控。女。ハ。思。ひ。ん。が。妹。也。も。同。バ。喜。以。て。罪。か。き。ふ。似。り。
 於。此。同。而。許。無。罪。の。者。多。く。予。が。初。の。意。ふ。ま。う。せ。て。當。家
 不。石。は。う。い。度。壯。士。也。又。彼。姦。黨。ホ。ハ。他。家。領。分。の。者。ども
 かり。者。ハ。多。勢。が。非。義。と。決。び。而。却。面。そ。然。と。相。け。己。が。為
 小。ハ。師。身。者。妻。に。無。許。と。云。ひ。け。割。決。云。と。加。く。切。害
 せ。せ。せ。ら。ん。極。悪。人。と。号。べ。き。者。れ。バ。法。と。正。し。て。刑。了
 け。ふ。べ。し。そ。外。一。本。松。の。者。共。ハ。必。竟。如。年。の。英。氣。子

但。せ。を。乳。急。も。さ。く。陣。出。回。交。の。情。好。さ。く。欺。う。れ。し。
 比。意。せ。し。と。察。せ。ら。ふ。そ。と。私。倅。か。ら。も。畠。山。義。経。が。家
 居。れ。バ。隣。玉。唇。齒。の。情。か。う。ら。ん。や。唯。く。あ。ら。ぬ。さ。ま。あ。い。
 放。ち。か。つ。れ。を。し。下。毛。字。於。文。領。内。の。者。も。是。は。準。ど。べ。し
 彼。仙。石。以。下。の。者。共。ハ。佐。と。乳。明。の。後。法。令。不。便。せ。刑。罰。と
 け。ふ。べ。と。た。れ。バ。先。國。門。云。付。動。ぶ。き。也。と。大。御。様。と。令。す
 之。ハ。政。系。成。実。ホ。も。其。大。度。は。腹。敬。而。百。石。と。退。け。り
 岩。見。同。胞。會。于。雅。松。本。平。車
 却。院。若。く。是。同。胞。ハ。先。日。川。添。の。役。討。は。遷。而。后。ハ。仙。石。等。が。呵
 嘖。と。免。せ。り。割。決。不。目。く。楠。家。の。ま。る。か。ひ。と。う。け。つ。客。の
 て。く。小。ま。さ。く。紀。居。俊。ホ。安。き。に。及。ぶ。と。い。ふ。も。う。ん。せん



赤ん
軍六と
擧同の
図

妹鬮子の病の快方ふりうらざりと。是より後て醫所日く小
 通ひ妻士時く小業とちうぶかど。室右衛門幽室にまゝく
 是と見聞量慈ひといひくといふも。間とただくられべ
 うんともするあゝと。只房命と嘆より外他さうり
 うら。七月九日とらうよ番士来て。幽室の戸とるやうか
 ひう死て曰。今日玄流うらぐきの昔これるの男。は今日夜は
 出らるべしと。有まど。室を評。おのこつて。やうて感儀
 とはくうひ幽室と出さば。あ人の書士前境は流。掇例と迫
 て。あ方のお板間うぞ中令くるは。いひて妹鬮子といひて
 妻士三人同く掃とまりりて。出来る。実や鬮子のすぐこ病
 苦ふ憔悴而歩りといひたると。妻士の病よとらうつ

掇例あぞ出らる。押去る。廿五日芭蕉街あく捕られしう
 後ハ同胞離くとかりて。獄中お苦められ。幽室は家こめられ
 て。只存亡と案る而已かりしと。今始て。こゝれわあうび
 同胞親しく面と金と得て。お申無量のたれいとくみ
 流る。候とまらひ。放流。流於。てせうらへよそのとらあを
 あれ。見たり。その。所。烈。症。の中。より。一。個。の。士。様。と。進。て。曰
 その。ゆ。ゆ。裁。評。の。間。道。役。例。は。留。置。の。お。同。居。の。婦。人。病
 き。は。付。先。目。より。醫。業。と。絶。つ。い。づ。も。病。症。良。字。死。り
 此。の。中。これ。お。後。て。別。は。客。舎。に。命。じ。て。今日。より。居。と。習。
 中。へ。この。男。同。居。有。り。宜。書。生。と。加。ら。ら。べ。一。程。客。舎。の
 有。羽。田。倉。修。平。一。付。知。バ。包。と。死。な。く。あ。ら。べ。一。を。介。婦。人

旧儀の者ホ。傍らひひる。あは。足亦を。思ひ。同居。有て
 今抱。と。けら。づく。料。万。事。楠。上。野。分。の家。士。田。辺。某。等。情
 と。以。申。入。べき。と。ぞ。速。う。う。る。重。名。并。是。と。せ。て。申。中。御
 安堵。の。思。ひ。と。は。して。對。々。の。や。う。の。前。日。高。市。役。所。不。事。と。り
 妹。後。を。信。と。ぬ。い。と。括。別。の。古。儀。と。兼。そ。上。部。寛。仁。の。あ。は。は。に
 と。承。り。の。事。重。く。ま。が。う。に。決。才。よ。い。と。さ。も。温。順。よ。う。と
 け。く。恭。然。と。して。申。上。ら。る。一。張。張。一。つ。の。つ。ら。き。威。儀
 半。々。々。の。英。雄。の。形。勢。と。見。て。一。室。の。法。士。も。感。激。の。あ。ひ
 と。ま。せ。り。新。て。法。令。の。や。く。諸。士。一。揖。畢。重。く。宴。會。の
 ぞ。う。つ。り。の。新。意。と。ん。同。胞。が。宴。會。と。ま。り。う。る。家。居。ハ。町
 け。さ。る。も。羽。田。屋。後。平。と。い。ふ。の。の。宅。に。て。別。は。後。用。の。を。ま

と。あ。り。為。ふ。あ。ら。う。い。い。れ。ば。母。屋。と。離。見。廊。中。より。通。る。の
 生。後。や。う。く。向。も。後。く。い。と。清。ら。ら。な。り。う。人。小。嗣。子。が。病
 床。と。別。不。強。な。り。今。抱。の。先。女。な。ど。清。け。侍。り。と
 取。く。い。と。り。う。の。お。も。同。胞。愛。と。始。て。同。居。か。り。たり。と
 姉。と。あ。ら。う。人。を。小。新。跡。ま。う。ぬ。扱。ふ。あ。ら。事。今。の。是。期。夕。小
 け。の。も。ち。る。本。は。若。崎。八。幡。玄。の。真。如。と。い。ふ。と。西。小
 向。り。伏。洋。作。ら。う。り。う。る。小。屋。後。平。も。結。出。り。町。守。り
 後。と。な。し。又。言葉。や。う。い。て。か。り。て。嗣。子。が。ま。と。ま。り。と。り
 け。も。最。後。思。ひ。か。の。退。く。ら。の。同。胞。が。房。令。と。ゆ。り。ひ。や。る
 ぬ。べ。一。程。な。く。醫。師。來。う。て。嗣。子。と。診。察。あ。ら。う。て。今日。の
 振。作。と。述。業。と。調。割。さ。り。引。取。ら。う。小。程。な。く。夕。納。も。強。り

て秉燭の比よ及び至後平再出云々曰只今長尾楯上列
 より古使者として田辺某を誘及入来ありいと。ト云ふぞ
 室右衛門をては色別級取は終てまゝとる人よこそあれ
 ろく。席とありさる。結成さる。やぐらへ入る。又十
 有餘あり。温順なる士の。さうぬ。たあつけけく
 坐尔忘。初偈の名對面は是列楯政系が家士田辺某を誘
 たり。野態熱小曰。上座の政系中へ入。次中へ。今度某を誘
 く。若の程泰入いふ也。且婦人の後某。心と死さく。介抱ある
 べく。野態婦。好のふ。此もをを致さく。云付らる。づく。極を
 うち。裁許の沙汰もなぶ。く。早く。本懐と移ぐ。新
 たり。と。述。り。る。守る。良政で。善志と。附。兵。宣。發。

執事と頼あり。つ。と。色。を。云。ら。る。當。下。某。を。誘。集。と。お。く
 曰。其。婦。人。の。後。某。由。尋。中。な。る。の。い。ふ。に。れ。れ。明。か。と。中
 前。て。い。さ。く。之。も。御。社。者。を。誘。致。する。の。之。に。訊。中。也。
 某。某。本。國。と。出。る。ふ。の。時。太。婦。人。と。同。伴。せ。し。や。又。い。出。ま
 の。後。途。中。あ。り。環。り。合。れ。し。事。平。且。河。板。小。新。高。比。へ
 同。伴。せ。し。や。世。後。詳。又。信。り。せ。せ。あ。り。は。や。と。懸。り。て。同
 かけ。ら。る。ふ。室。右。衛。門。を。誘。及。り。入。来。と。辱。り。し。て。是。を
 曰。由。原。志。の。如。ど。身。小。取。り。者。が。く。く。と。そ。い。へ。何。と。平。某
 中。さん。や。と。く。十。又。又。の。時。武。者。修。め。し。て。不。小。筑。前
 と。出。し。し。ら。り。と。結。成。廻。磨。し。七。年。と。経。く。高。春。下。毛
 あり。野。沢。の。里。の。小。派。文。苑。某。高。が。方。小。取。り。と。武。將。と

侍お務てより。志ありし折留せしれ。是罪なく。門生ホ
 と教へらびきき。日とるの中。あも。彼奉。意。宇。邦。美。の
 於女。ま。う。ひ。晝夜。青。樓。あ。そ。び。て。か。つ。ら。さ。る。と。あ。え
 せむ。の。あ。ま。り。を。毒。か。る。者。の。真。心。を。か。ん。し。く。頼。り
 意。ど。て。宇。邦。美。よ。つ。つ。り。く。彼。女。よ。そ。死。て。お。暮。ぬ
 中。と。陪。奉。豪。が。放。色。を。止。む。ん。と。そ。青。樓。三。浦。屋。小
 つ。つ。り。て。さ。り。た。れ。事。な。ら。う。ん。を。於。女。の。妹。あ。て。石。例。の
 遊。后。小。父。兄。共。よ。成。願。大。河。廣。津。が。為。し。付。色。と。妹。の。園。を。事
 及。推。松。右。平。小。叔。を。れ。も。後。世。の。名。が。を。と。案。ん。が。為。又
 系。小。環。今。べ。れ。の。役。り。あ。て。幼。青。樓。小。在。の。説。と。笑。し。よう
 父。兄。と。付。色。さ。る。小。性。倒。し。て。世。と。追。の。心。を。己。を。守。り。て。恩。人

ころ。推。松。も。告。げ。又。三。浦。屋。も。知。り。以。て。密。小。妹。成
 清。い。出。し。て。面。見。さ。り。し。ま。で。の。事。を。治。事。に。於。て。於。孤
 づ。き。の。彼。推。松。よ。一。様。も。演。ぎ。り。割。り。跡。の。証。状。と。肩。を。捕
 たり。と。今。更。様。て。か。つ。ら。さ。る。と。を。所。よ。し。推。松。方。は。訪。ひ。て
 厚。恩。と。謝。を。上。し。し。事。と。あ。り。て。懸。な。げ。然。ら。う。り
 義。使。の。名。松。な。れ。ば。い。つ。で。う。よ。そ。小。性。か。ら。ん。や。於。情。を
 加。へ。は。良。漢。も。な。れ。ん。と。血。氣。の。勇。ま。は。命。り。つ。に。於
 ち。早。く。世。と。付。同。抱。後。よ。板。橋。よ。立。帰。り。て。弟。を。罷。と
 び。き。り。恩。も。報。ん。の。と。事。と。前。後。小。性。し。ら
 道。小。遠。ひ。し。雲。霧。の。行。跡。形。身。小。か。り。し。難。波。も。義。と
 致。恩。小。そ。む。き。ころ。天。將。よ。う。と。い。ら。れ。今。ふ。所。れ。三。浦。屋。や



長元正 佳家 二角 六

後、昨日と経く。当地はあられは家の主、ゆ平とゆふ。如書と以
 上野へ、松物、若者同抱が照とえらるたり。然ふ候て、来
 其時の使者として、松石が郎ふりたり。若者の傍間を止免
 申ふ川添の役所は遷て申うに及びたり。於て、推雲
 及びゆ平より皆あそく、拙者の疾之ゆりて。上野へ申入る
 りのゆい。羅中あり。惟松と与名對面ハ跡して、懐く居る
 して。若らんが懐く居る。成徳大學。廣徳軍を率つ。大川跡を
 若が姓名及び。年甲お難名問ふ。あつて、沈むは、一擧して
 之あぐれ。若を帝ハ懇志のゆい。と厚く謝て、同一号送り出
 け。色とのせ、めつらや達しと。若平とゆい。席とす。め
 後と厚くして、名對面と居。實小、若邊は對する面ハ、あつて

ひとて、見せ花が今抱とゆい。一より。嗣子ハ救られ、るる共
 持。は夜の情まで、さる思案と謝せんとすると。若平は、さう
 ちかく押さめて、若を若子とあげ、多へ、由、若のほ、ど、あ
 嚮、よ、田、邊、へ、移、り、あ、ひ、し、と、次、よ、在、て、具、よ、取、つ、て、感、激、お
 堪、は、給、は、畢、若、平、と、信、ひ、か、ん、や、兼、こ、そ、ハ、國、氏、の、類、を、あ、つ、と
 う、け、が、ひ、さ、ぐ、其、勝、の、令、嬢、と、仮、あ、も、花、街、不、交、し
 り。云、甲、斐、も、さ、れ、不、業、と、て、ゆ、い、物、と、初、も、懇、懇、り、ゆ
 云、若、と、あ、つ、若、最、苦、し、く、ぞ、ゆ、也、嗣、子、が、書、送、を、見、て
 か、あ、し、み、の、あ、ま、り、み、と、浦、香、た、の、と、妻、か、る、る、女、と、め、つ、て
 嗣、子、の、か、え、り、し、と、あ、げ、け、を、身、ハ、廻、正、修、り、と、考、て、同、抱
 が、あ、し、と、追、修、ふ、力、と、居、る、ん、と、あ、ま、り、う、正、達、申、あ、つ、彼

後竹英如録三編卷之三

芭蕉が湯の騒動と聞しより乃と意をく高洲よりありま
 伝平と適逢く長尾捕上野介の内河為事。且。畢竟が
 出らんとき意の仇なりとあひ送へる上。亦。ある人軍六が終と
 伝。妻の密夫ありして。奴とめきひしより。彼。思家の侍者
 と候り。捕家と作保て守右衛門と殺んと為る事。時昔。森
 堂等。白ゆの依て。悉く分曉する候や。や。悟り。これ。何。抱。打。破
 毎。又。驚。且。悔。嘆。嘆。夢。う。つ。け。の。境。と。あ。は。良。有。て。ま。る。節
 嘆。嘆。而。曰。嗚。呼。世。罪。の。業。は。互。人。の。恩。義。と。外。而。は。為。跡。の。疑。也。
 願。以。誠。は。類。為。新。業。と。以。嗣。子。と。誘。ひ。出。さ。し。より。事。了。す。り
 比。夜。の。禱。早。く。身。は。保。て。故。は。忘。れ。合。は。る。歎。思。ひ。も。か。け。ぬ。濡。ぬ。の。恨。と
 交。て。も。う。め。く。も。汁。波。の。中。小。階。く。妹。ま。で。に。裸。縛。の。憂。自。残

んせして。ま。ま。上。の。重。き。病。は。苦。む。お。罪。科。と。い。ふ。せ。ん。と。身
 の。失。措。と。悔。つ。く。さ。し。の。程。き。英。雄。も。打。志。あ。り。ま。す。の。ゆ。え
 され。推。松。へ。の。め。も。得。ま。で。さ。し。ら。つ。む。き。て。ど。め。さ。し。ら。り。
 嗣。子。ハ。身。の。憂。し。り。も。先。程。事。が。心。事。也。あ。ひ。や。り。つ。く。せ。死
 か。ひ。し。海。は。海。の。い。ま。ひ。し。る。神。々。い。ま。め。て。泣。入。り。れ。ば。産。婆。を
 須。史。病。室。に。あ。り。ま。す。後。平。ハ。次。の。間。に。先。刻。よ。う。の。始。末。を
 打。聽。く。あ。ら。う。い。が。め。く。て。い。果。ど。熱。の。為。小。骨。丸。と。ら。し。ら。り
 誓。と。付。の。弱。み。と。さ。ら。ん。と。案。も。温。石。ま。ま。の。公。と。ま。げ。は。し。り。け
 かく。廊。下。と。踏。で。ゆ。り。し。が。總。住。者。と。あ。ら。う。ま。る。杯。盃。も。あ。ら
 捧。さ。せ。自。鉦。子。盃。と。右。右。は。塙。出。来。り。て。い。ん。何。の。圖。形。値。遇。者
 一。吸。び。か。一。瓶。と。こ。そ。ら。み。あ。ら。ぬ。學。ぶ。ふ。り。へ。も。ま。も。亦。い。つ。つ。死。ひ

かんとして。まを静めどすめらる。後季を是と因縁で。先之忍人
 よりこそと。推松はすめられ。右平園入る。素はるも月ひひれど。
 下戸と名よびひつ。あおそ思んよりをわさせらる。鬮子もけふ
 ぬらう乎ひさう。うらつれも。そこらうしとて。福座うらうらう出で。
 推松が登とて。いつてきさる。全海平大は収び。新てふ日あり。後
 快ふふ。うらめぶと。そこを利する。巾女とて。わど能もめ。せ。後
 女意ふが捕られ。そのの事共など。つらき。と連絡志。こ交り
 小治りけ。一中の奥と流され。岩見同抱も。あんなわめ。こ
 安松。柳愛若と。さう。ふらう。わらう

繪本後集英雄録三編卷之三 畢

